

1. 評価結果概要表

作成日 平成 19 年 11 月 19 日

【評価実施概要】

事業所番号	2172600559		
法人名	株式会社 ナックス		
事業所名	グループホーム ぬくもりの家		
所在地	岐阜県揖斐郡大野町稲富 7 1 2 - 1 (電話) 0585-34-1947		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成19年11月9日	評価確定日	平成20年 1月15日

【情報提供票より】 (平成 19 年 10 月 24 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 3 月 6 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	12 人	常勤 12 人, 非常勤	人, 常勤換算 8.74 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2 階建ての	1 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (100,000円)	有りの場合 償却の有無	有 (1ヶ月以内)
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		800 円

(4) 利用者の概要 (平成 19 年 10 月 24 日 現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	0 名	要介護2	5 名		
要介護3	7 名	要介護4	3 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.8 歳	最低	59 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	おおのクリニック	増田歯科医院
---------	----------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム周辺は田園風景が広がり、近くには神社や里山があり自然豊かなホームである。敷地内に広い庭園と農園がうまく作られて太いケヤキがシンボルツリーとなっている。管理者家族を中心に「縁あって同じ家に住む家族のように楽しい生活を提供したい」と、熱意と信念によってケアが支えられている。働きやすい職場環境を工夫し、台所を中心にしたベランダや職員の休憩室、広いリビングを兼ねた廊下、渡り廊下、2つの玄関などで、ケアに集中できる状況が作られている。職員は利用者一人ひとりに合わせ、寄り添い、心豊かな暮らしを共に生活している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ケアの記録書類の整備については個人用ファイルを作成した。事故防止やヒヤリハットについてはノートを作り、ミーティングや話し合う機会を設けて改善につなげている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者及び2・3名の職員で自己評価に取り組み、問題や改善課題を見つけて話し合う機会を設けている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議に家族の代表や包括支援センター、町職員、民生委員、町にあるグループホームの代表者が参加している。討議内容は、市民にグループホームを理解してもらう広報やポスターを作製してのPR活動、家族の意見などを出しやすい場として運営に活用している。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見、苦情、不安への対応方法については、利用者・家族との面会時や電話連絡時に聞きやすく話しやすい関係をつくり、そのつど管理者と、職員とで話し合っている。苦情はあったが、家族に説明して納得を得た。どんな小さなこともきちんと説明することの大切さを運営に活用してサービス向上につないでいる。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町の行事に参加したり、地域のお祭りや小学校の運動会に応援に行くなどしている。近隣の方から野菜の差し入れをされたり、近くのスーパーへ買い物に行っている。自治会や老人クラブの加入はしていないが、近隣の方との交流はしている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「同じ家ですむ『縁』を大切に、助け合い協力しながら、また、地元との触れ合いを大切にし、楽しく生活で出来るよう、一人ひとりの心のケアにきめ細かく配慮して安心して生涯を全うしてもらえるよう」といった理念が作り上げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は各ユニットの玄関の見やすい場所と事務所の3ヶ所に掲示してある。利用者・家族にも丁寧に説明し、文書で渡している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町主催の行事に積極的に参加したり、地域の祭りや小学校の運動会へ応援に行っている。また、自治会や老人会へは加入していないが、近隣から野菜の差し入れがある等個人的な交流はある。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者および職員は外部評価と自己評価の意義をよく理解し、全員で話し合っ改善につなげている。前回の改善課題である利用者のケア記録は個別のファイル1冊にまとめ、具体的に取り組んでいる。また、事故報告やヒヤリハットは朝のミーティングや会議に取り上げ、意識を高め、努力をしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、利用者家族や町、地域包括支援センター職員、町にあるグループホームの代表者のほか、民生委員の積極的参加がある。討議内容はグループホームの広報や行事の紹介、家族の悩みなどで、運営やサービスの向上に活用している。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議をきっかけに町役場との信頼関係が築かれた。認知症に関する地域への啓発ポスターの掲示やグループホーム情報の広報への掲載などの許可が出て、いい機会となった。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への報告は、面会時の話し合いを中心に行っている。面会のない時は、スーパー等で見かけた時に声をかけ、報告している。必要に応じて、電話や書面でも報告している。また、行事参加の報告は、ホーム便りを作成し配布している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見には、そのつど管理者と職員で話しあい、その後で家族と利用者に説明し、対応に納得を得るようにしている。家族からの苦情はあったが、よく話し合いを行ったことで解決出来ている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者ごとの担当者は決めておらず、職員全員が全ての利用者に関わることにより、より深い関係を増やすことで、スタッフの異動の軽減を図っている。管理者は職員の家庭事情を考慮して勤務体制を組み、離職が少なくなるように努力して利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームの内部研修である学習会には、パートも含め全員が参加している。また、介護関係の専門書の書棚が事務所に設置され、貸し出し簿が作られ、いつでも読む事が出来、職員の現場指導や学習会に役立てている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの職員と相互交流する機会をもうけている。ポスターを作成して役場内に掲示したり、広報紙に情報を提供したり等、地域ケア会議で知り合った同業者と共にPR活動の取り組みが出来た。活動を通して情報を得、サービスの向上に繋げている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学は随時受け付けている。また、サービスの開始には、できるだけ多くの情報を家族やケア関係者から得る努力をし、出来る限り今までの暮らしが継続できる様に心がけている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	野菜畑は、道具置き場も含め利用者自身が管理している。ここで採れる野菜は、食卓に上っている。一人ひとりの個性を大切にして利用者の持っている力を引き出せる様に庭の手入れや花・野菜作り、料理、刺し子など生活経験を活かし、共に支えあう関係作りができています。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らし方を大切にし、ホームでもそれに近い暮らしを続けられるよう、利用者の意思を確認し、支援している。一人ひとりの意向の把握に努めている。昼食場所を居室、食堂、居室前の廊下のテーブルと、利用者が希望する場所を選択している光景があった。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画に反映するため、家族とは訪問時などに積極的に話し合っている。またかかりつけ医の意見も大切にし、ケアプランに反映させている。利用者や家族に了解を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の日々の状況に関しては、毎朝10分～15分のミーティングを行い、職員の「気付き」でよい支援方法を共有し、その日のケア活かし、その結果を月1回の介護計画の見直しに繋げている。この方針が、職員全員に理解されており、ケアはされているが、個々に記入漏れがある。	○	確実な記録方法を工夫されたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族からの要請があれば、病院の通院介助はホーム側で支援している。定期的な診察に行く時は家族が連れて行き診察終了後はホームで迎えにしている。外食希望者は、週に2回、近くの大型スーパー内のレストランに出かけている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	毎月2回、第2と第4水曜日が協力医の往診日となっている。利用者や家族が選択したかかりつけ医で受診できるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針は、入居時やそのほか必要に応じて話し合いをしている。対応方法は職員全員で周知している。現在も癌の方を受け入れ、ケアや心のサポートをしながら終末期を支援している。	○	終末期や重度化に向けての取り決め書類は現在準備中とのことであり、ホームと家族間、さらにはかかりつけ医などケア関係者にも協力を要請し、適切な書類整備の取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの保護の大切さを理解しており、利用者の誇りや尊厳を大切にされた対応をしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりのペースや好みに合わせて、毎日を過ごせるようにしている。食事も利用者の意志を優先し、好きな場所でとることができる。気の向くまま畑や庭づくりなどの農作業を楽しんだり、利用者の希望にそって支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を全員で楽しめるよう、庭での食事会なども行っている。また、食事の配膳や片づけも利用者の意志を尊重している。箸の進まない利用者の様子を見て、代替食の対応もしている。食事時間もゆったりとして利用者のペースに合わせている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間の決まりはあるが、体調に応じて支援している。それ以外でも時間や回数は利用者の要望に応じ、毎日シャワー介助をしたり、ケアのために必要な場合はその都度対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴の把握には特に力を入れ、その情報を元に調理や畑仕事、刺し子等その人に応じた役割や楽しみごとを支援している。その他に、ホーム内で模擬売店を月数回開き、買物により利用者の知的能力（計算）の低下予防につなげている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や親戚の家の訪問など希望があれば職員が同行して外出支援をしている。近くの道の駅や、スーパーの喫茶店や食堂を利用して外出する機会を作り出掛けている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	通用門や窓に鍵はかけていない。日中は開放しており、庭仕事や外気浴を積極的に取り入れ、徘徊している人もわたり廊下や、テラスや中庭にも自由に好みの場所に移動ができて拘束感のない自由な生活が保障されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員は、2日間の防災研修に参加している。また、避難方法について職員全員で話し合い、周知している。	○	地域の協力を得られるように働きかけをし、利用者参加の避難訓練をする事が望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事摂取量は、職員がその都度チェックして記録に残し情報の共有化に努めている。	○	チェック表の記載漏れがあるので、職員全員で記入しやすい書類の検討が期待される。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入ると、背丈ほどの昔の灯籠が出迎えてくれる。採光も自然で、季節の生け花などが用意され、リビング兼廊下には囲炉裏の自在かぎや和ダンスが設置され、中央には観音像が安置されている。2階の窓にはステンドグラスが使用され、安らぎ、癒される、静かで落ち着いた和の空間が作られていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、利用者の使い慣れた身の周り品や、趣味の道具等が持ち込まれている。好みに合わせてそれぞれ個性的な配置がされている。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。